

2011 年度カリキュラム改革の概要と 在校生への経過措置について

2012 年 4 月 6 日 アカデミック・オフィス

APU では、2011 年度より APS 学部・APM 学部にて各4つのコースを配置し、大幅なカリキュラム改革を行ないました。

カリキュラム改革は 2011 年 4 月以降に入学した学生に対して適用されています。基本的には、入学時のカリキュラムに基づき履修を行います。カリキュラム改革により科目の新設・廃止が生じています。カリキュラム改革により、学生の利益になることは可能な限り在校生にも適用し、学生にとって不利益となることを避けるという原則に従い対応しています。

1. カリキュラム改革の概要 :2011 年度以降入学の学生にのみ適用

1-1 アジア太平洋学部について

アジア太平洋地域の多様な政治、経済、社会、文化等に関する総合的な理解にたち、国際社会、環境と開発、観光等に関する基礎的および専門的知識を修得し、言語能力、コミュニケーション能力、問題解決能力を涵養し、アジア太平洋地域が直面する多様な諸課題を理解することにより、アジア太平洋地域の持続的発展と共生に貢献できる人材を育成することを目的とします。

環境・開発	Environment & Development
観光学	Hospitality & Tourism
国際関係	International Relations & Peace Studies
文化・社会・メディア	Culture, Society & Media

専門教育科目のうち、各学修分野の科目を 20 単位以上修得した場合は、学位記に学修分野の分野名称を記載します。

1-2 国際経営学部について

アジア太平洋地域の多様な政治、経済、社会、文化等に関する総合的な理解にたち、ビジネスやマネジメント等に関する基礎的および専門的知識を修得し、経営戦略立案・経営管理能力および異文化コミュニケーション能力を涵養し、企業経営における国際的多様性を理解することにより、グローバル化する企業活動に貢献できる人材を育成することを目的とします。

会計・ファイナンス	Accounting & Finance
マーケティング	Marketing
経営戦略と組織	Strategic Management & Organization
イノベーション・経済学	Innovation & Economics

専門教育科目のうち、各学修分野の科目・コア科目・演習科目から 30 単位以上修得した場合は、学位記に各学修分野の分野名称を記載します。

1-3 言語教育改革について

① 英語教育における構造

英語教育の要卒構造については、「スタンダードトラック(Standard Track)」(24 単位/TOEFL500 到達目標)と「アドバンストラック(Advanced Track)」(12 単位/TOEFL550 到達目標)を設定しています。

従来からの到達目標となる TOEFL500 の到達に対して、更なる単位数の増強を行い、着実に到達目標を達成させるとともに、上位層の英語運用能力を更に伸張させる目的で卒業要件を 2 とおりに構造化しています。

各トラックの必修単位(24 単位ないし 12 単位)は、連続受講(大学による登録)とし、1 セメスターにつき 6 単位の英語学習を行う構造としています。また、英語基準学生(母語話者を除く)にも事前申請・審査に基づき「アドバンストラック」の受講を許可します。

② 日本語教育における構造

日本語教育の要卒構造は全学生 16 単位を必修とします。

日本語必修科目は、連続受講(大学による登録)とし、基本的には第 1 セメスターで 12 単位、第 2 セメスターで 4 単位の日本語学習を行う構造としています。

③ AP 言語教育における構造

旧カリキュラムと同様に、開講科目は中国語、韓国語、ベトナム語、タイ語、マレー語・インドネシア語、スペイン語です。

日本語基準学生は「英語初級 A・B」、英語基準学生は「日本語初級 I・II・III」を単位修得していることを、履修の前提条件としています。

2. 要卒単位構造について : 2011 年度以降入学の学生にのみ適用

2-1 要卒単位構造について

アジア太平洋学部、国際経営学部ともに同じ要卒単位構造となります。

日本語基準 英語スタンダードトラック学生

分野		必要単位数	計
	英語	24 単位以上	124 単位 以上
共通教養科目		40 単位以上	
専門教育科目		62 単位以上	
自由選択		22 単位以上	

* 国内学生は英語開講科目(言語科目除く)を 20 単位以上修得すること

* 英語開講科目を履修するためには「英語中級 A・B」を単位修得すること

日本語基準 英語アドバンストラック学生

分野		必要単位数	計
	英語	12 単位以上	
共通教養科目		40 単位以上	124 単位 以上
専門教育科目		62 単位以上	
自由選択		22 単位以上	

* 国内学生は英語開講科目(言語科目除く)を 20 単位以上修得すること

英語基準学生

分野		必要単位数	計
	日本語	16 単位以上	
共通教養科目		40 単位以上	124 単位 以上
専門教育科目		62 単位以上	
自由選択		22 単位以上	

3. 教学システムについて :2011 年度以降入学の学生にのみ適用

3-1 履修登録上限単位数について

単位制の実質化の観点から、1 セメスターに履修登録できる上限を以下の通りとします。

1 セメ	2 セメ	3 セメ	4 セメ	5 セメ	6 セメ	7 セメ	8 セメ	合計
18	18	20	20	20	20	24	24	164

3-2 成績評価の厳格化と GPA 制度について

GPA 制度の客観性や国際的通用性を高めるため、通算 GPA に F 評価(0 ポイント)を算入し、成績証明書に F 評価を記載します。

通算 GPA: 入学以降の累積 GPA

$$\frac{【A+単位数 \times 4】+【A 単位数 \times 3】+【B 単位数 \times 2】+【C 単位数 \times 1】+【F 単位数 \times 0】}{\text{総登録単位数 (P・T 評価は除く)}}$$

当該 GPA: 当該セメスターにおける GPA

$$\frac{【A+単位数 \times 4】+【A 単位数 \times 3】+【B 単位数 \times 2】+【C 単位数 \times 1】+【F 単位数 \times 0】}{\text{当該セメスター登録単位数 (P・T 評価は除く)}}$$

4. 在校生への経過措置について:2010年度以前入学の学生に適用

4-1 経過措置とは

カリキュラムは、通常、入学した年度のカリキュラムが卒業時まで適用されます。これは、入学時からの系統的な履修条件を保証するために必要なことです。したがって、カリキュラム改革は、改革実施年度、つまり2011年度以降に入学した学生から適用します。しかし、在校生にも適用したほうが良い事項や適用せざるを得ない事項があります。経過措置とは、こうした事項に対応するための措置です。

①経過措置の適用にあたっては以下を原則とします。

*学生にとって不利な条件となることが明らかな事項については、原則として遡及しません。例えば、卒業に必要な単位数の変更など。

*学生にとって有利な条件となることが明らかな事項については、可能な限り遡及適用します。例えば、新設科目の履修許可など。

②経過措置は、学年進行に合わせて実施します。

4-2 要卒単位構造

卒業に必要な単位数およびその内訳は現行通りです。その理由は、卒業に必要な単位およびその内訳が変わった場合、これまでの履修計画を大きく修正する必要がある可能性があるからです。

4-3 教学システム

各セメスターにおける履修登録上限単位数、成績評価・GPA 計算は現行通りです。

4-4 新規開設科目

カリキュラム改革により新たに開設される科目は、年次的に開講します。開講された科目は、2010年度以前の入学者も履修することが可能です。

4-5 名称変更科目

カリキュラム改革により科目名称が変更になった科目は、2011年度以降に履修した場合、原則として、新しい科目名称で履修することになります。

①これまでに履修済の科目は、履修時での科目名称で表示されます。

②2011年度以降に履修した科目は新しい名称で履修することになります。

4-6 分野変更科目

カリキュラム改革により科目分野が変更になった科目は、原則として2006年度カリキュラムの科目名称で履修し、単位集計されます。2011年度カリキュラム適用学生と同じクラスで受講しますが、科目名称と集計分野が2011年度カリキュラムと2006年度カリキュラムで異なる場合がありますので注意をしてください。

4-7 廃止科目

カリキュラム改革により廃止された科目は、現行カリキュラムの学生の履修を保証するため、年次的に閉講する措置を取ります。

4-8 復学・再入学した場合の取り扱い

通常は、入学した年度のカリキュラムが卒業まで適用されます。ただし、復学また再入学によって、適用カリキュラム年度が変更になる場合があります。カリキュラム適用年度が変更になった場合、要卒単位構造を含め、全ての条件が新しいカリキュラム適用年度に基づくこととなります。

ただし、以下3点については、学生への負担が大きいため、復学・再入学によって、カリキュラム適用年度が変更となった場合であっても、2010年度以前に入学した学生への適用はしません。

- (1) 4回生以上における履修登録上限単位数の変更
- (2) 通算 GPA への F 評価算入、成績証明書への記載
- (3) 国際経営学部 (APM) 登録必須科目「経営学入門」「ビジネス数学」

* 300 番台・400 番台専門教育科目の履修要件など、その他の取り扱いについては、【詳細:2011 年度カリキュラム改革 復学・再入学による適用カリキュラム変更 (2006 年度カリキュラムから 2011 年度カリキュラムへ)】で確認して下さい。

5. 言語科目経過措置 :2010 年度以前入学の学生に適用

5-1 英語科目

英語科目受講については、2006 年度カリキュラムの科目名称および単位数を継続します。

5-2 日本語科目

日本語科目受講については 2011 年度以降、新科目名称を適用します。科目の名称変更は以下の通りです。

旧科目名称(単位数)	2011 年度以降の新科目名称(単位数)
日本語初級 I・II・III (12)	名称変更なし
日本語中級 (4)	名称変更なし
日本語上級 I (4)	日本語中上級 (4)
日本語上級 II (4)	日本語上級 (4)

5-3 AP 言語科目

AP 科目受講については、2006 年度カリキュラムの科目名称および単位数を継続します。AP 言語受講の前提条件に変更はありません。

日本語基準学生 「英語中級 I・II」を単位修得すること

英語基準学生 「日本語上級 I」もしくは「日本語中上級」を単位修得すること

アカデミック・オフィス
Email : acsubmit@apu.ac.jp
窓口時間 : 月・水・木・金 10:00 - 16:30
火 11:30 - 16:30